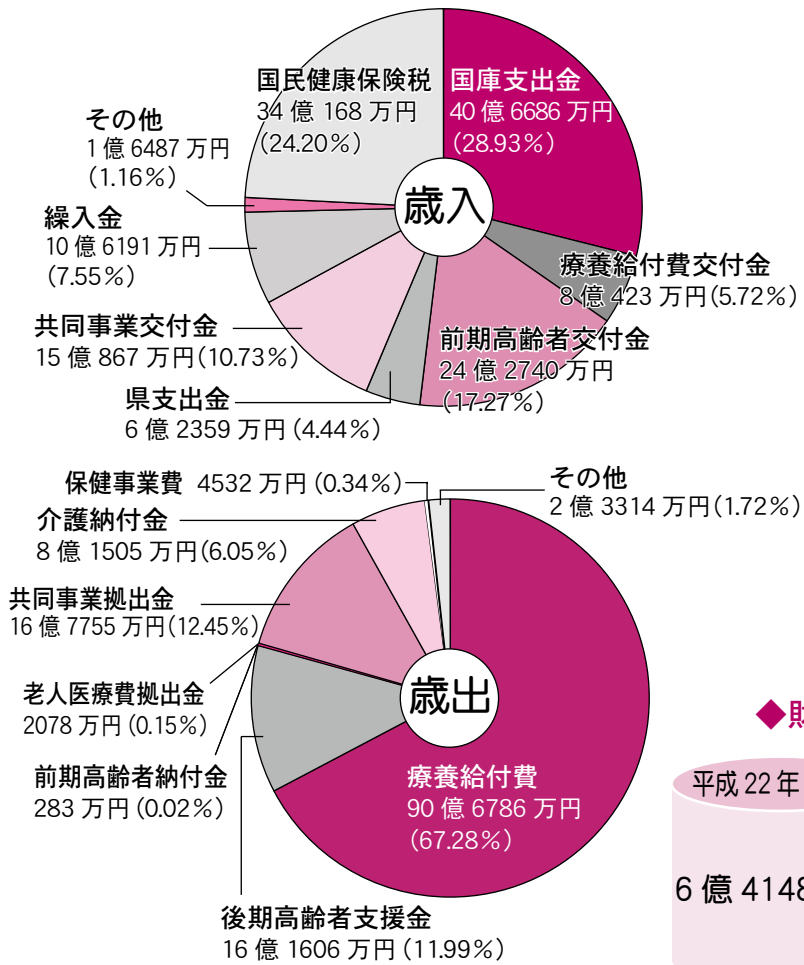


◆平成22年度国民健康保険財政決算◆

歳入 140億5921万円 歳出 134億7859万円



市の国民健康保険財政の収入のうち、国民健康保険税が収入全体の約二十四％を占めています。

国民健康保険税は、その年の医療費見込額から国・県からの補助金や市の一般会計からの繰入金などを差し引いた残りの額を被保険者に負担し

ていただいています。その大部分は、医療費の支払いに充てられ、国民健康保険財政を支える大切な財源となっています。

また、歳出では、療養給付費（被保険者の本人負担以外の医療費）が全体の約六十七％を占めています。

問 保険給付課 ☎6051

平成22年度国民健康保険事業会計決算

3 誇りあるふるさとの復興

農林業の復興

- ①農林業の生産基盤の復旧
- ②経営再建への支援
- ③農林業の復興
- ④農畜産物の安全の確保と放射能被害等への対応

- ⑤安全・安心な観光地づくり
- ⑥風評被害の払拭

雇用の維持・創出

- ①雇用の維持・確保
- ②雇用機会の創出
- ③若者の雇用創出と人材育成

まちなかの再生・活性化

- ①都市計画の見直し
- ②商店街の復興および再編
- ③中心商店街の機能強化
- ④都市構造におけるにぎわい軸の早期整備
- ⑤中心市街地活性化の推進
- ⑥まちなか居住の促進
- ⑦地域防災拠点の整備

観光業の復興

- ①観光施設の復旧
- ②観光資源の再生
- ③連携による観光の推進
- ④物産振興と交流を通じた活力の醸成

新しい産業の創造

- ①産業政策の再構築
- ②新しい産業の創造
- ③地域ブランドの創出

再生可能エネルギー（グリーンエネルギー）の促進

- ①再生可能エネルギーの普及促進
- ②省エネルギーの推進
- ③再生可能エネルギーの活用
- ④再生可能エネルギー関連産業の育成
- ⑤エコタウンの形成

伝統・文化の保存・継承

- ①文化財の復旧
- ②文化の継承

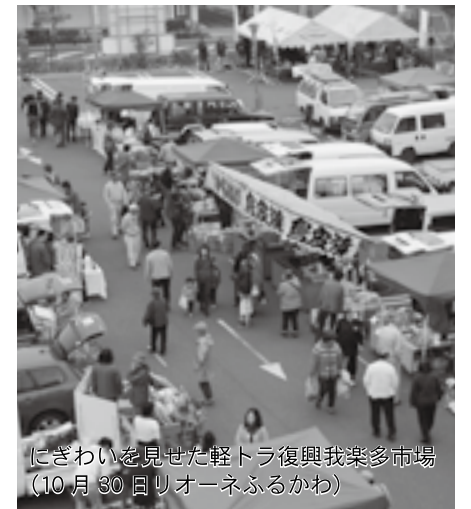
4 連携と交流による新たな大崎の創生

新しい東北における大崎の創生

- ①東西交通軸の整備
- ②災害時備蓄拠点施設の整備
- ③沿岸部の被災企業への支援
- ④被災地支援基地の整備
- ⑤物流拠点施設や自動車関連産業等の誘致
- ⑥特区制度の活用
- ⑦連携・交流による観光の推進
- ⑧大崎定住自立圏の形成
- ⑨市民交流の推進
- ⑩ふるさと納税の推進
- ⑪復興を担う人材の育成

計画の進行管理

震災復興計画は、大崎市総合計画の実施計画に組み入れ進行管理を行うとともに、市民に対して計画の進ちょく状況を定期的に公表し、広く市民から意見や提言をいただきながら、計画を推進します。



にぎわいを見せた軽トラ復興我楽多市場（10月30日リオーネふるかわ）

誇りあるふるさとの復興

農林業の復興、雇用の維持・創出、商工業の復興、新しい産業の創造、観光業の復興、再生可能エネルギー（グリーンエネルギー）※の促進、まちなかの再生、活性化、伝統・文化の保存・継承の八項目に取り組みます。

人口の減少、高齢化、商業の衰退と空洞化など、多くの課題を抱えていた中心市街地の商店街が被災し、震災からの復興のためには、まちなかの再生・復興が急がれます。まちなか居住の促進、来客者が回遊してまち全体へと、にぎわいが広がるような仕掛けづくりなどに取り組みます。

また、防災センター機能を持たせた市役所新庁舎建設や、警察署、消防署など防災関連施設の集約による地域防災拠点の整備と併せ、市役所周辺地区や移転後の市民病院本院跡地などの有効な土地利用を検討します。

伝統・文化の保存・継承では、倒壊した旧有備館を平成二十七年までを目標に復元します。

連携と交流による新たな大崎の創生

大崎市の復興は、東北の復興とともに歩んでゆく道のりです。新しい東北における大崎の創生に取り組みます。

太平洋側と日本海側を結ぶ東西交通軸の整備、災害時備蓄拠点施設の整備、沿岸部の被災企業への支援、被災地支援基地の整備など、東北の復興を支えるために、県北部の中核都市としてふさわしい大崎市の役割を担います。

※再生可能エネルギー（グリーンエネルギー）とは、太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスなどによる発電や太陽熱などのエネルギー源のことです。

※エコタウンとは、先進的な環境調和型のまちづくりのことです。

限りある資源を大切にしながら暮らしていく生活様式を確立することが、真の豊かさにつながっていきます。大崎市の新しい方向として、地球環境に配慮したエコタウン※の形成を目指し、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及と関連する産業の創造に取り組みます。

市長コラム 天・地・人 献上米



震災から八カ月目の十一月十一日、秋篠宮邸に新米献上のために伺いました。

経緯を紹介しますと、去る六月二十三日、秋篠宮文仁親王殿下と紀子妃殿下が大震災慰問のため来県された際に本市にお立ち寄りいただき、光栄にも村井知事とともに殿下、妃殿下との昼食に同席の機会を賜りました。その折に、お米談義になり、ラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」での渡り鳥と共生する農法「ふゆみずたんぼ米」の実例、「世界一田めになる学校」を東京大学弥生講堂で開催すること、ぜひそのイベントをご覧になっていただきたいことなどをご説明、進言申し上げました。

光栄にも、東大でのイベントに紀子妃殿下にお越しいただき、環境保全型農業を体験した子どもたちの発表を聞いていただき、励ま

またまた光栄なことがありました。なんと殿下と妃殿下が直接お会いいただき献上米の御礼と被災地復興への励ましのお言葉を賜り、お見送りまでいただきご厚情を賜りました。重ね重ねの光栄と感動、感激にあずかり、宮家のご繁栄を念ずるとともに、全国に発信できる自然共生型農業を一層推進することと、震災復興に粉骨砕身精進することを決意しながら宮邸を後にしました。

大崎市長 伊藤康志